SY7-4

模擬事例検証

佐々木　理[1]、石倉亜矢子[2]、米山　法子[3]、安田　一恵[4]、田中　洋祐[5]、大西　昌亮[6]、沼口　敦[7]、小鹿　学[8]

[1]天使病院　小児科
[2]函館中央病院　小児科
[3]地方独立行政法人市立秋田総合病院　小児科
[4]子ども未来局子育て支援部　子育て支援課
[5]札幌市子ども未来局児童相談所　地域連携課
[6]札幌市消防局　警防部救急科
[7]名古屋大学医学部附属病院　救急・内科系集中治療部
[8]山梨大学医学部附属病院　新生児集中治療部

模擬事例は6ヶ月男児、死因は乳幼児突然死症候群。この模擬事例について医療、法医、警察、かかりつけ医、保健師、児童相談所、消防で実際に症例に関わった多職種で模擬個別検証を行う。

検証を実施するに当たり重要なのは、1）子どもの予防可能死を減らすことが目的であること、2）特定の個人や関係機関の責任を問う場ではないこと、3）互いに立場を尊重し前向きな検討を行うこと、4）子どもの死を予防するための具体的な対策を提言すること、である。

また、発言者の立場が損なわれない、発言によって他者から攻撃されない等、参加者の心理的安全性を担保することも重要である。さらに、専門的な内容に偏らないよう注意しつつ、医療者が中心になって話を進めないように非医療者の発言の機会を確実に保証し、なるべく多くの意見や予防策を引き出しつつ検証を進めていく必要がある。

今回の模擬検証で、個別検証会議の流れについて理解を深め、保健行政をはじめとした多職種の関わりについて、考えていきたい。

Presented by Medical*Online